

## ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三-15

TEL 027-2555-3434

FAX 027-2555-3435

http://www.neues-asahi.jp

先人たちの残された作品や書籍の中で生活することが日常的になってきている毎日ですが、展示会場で交わした会話や数人の作家達と旅をした折に夜遅くまで話していたことが昨日のように甦ってきます。

書家の岡部蒼風が中心となっていた「沙鷄会」という展示会が開催される時には赤城温泉や榛名湖畔の旅館に十数人で宿泊し、夜遅くまで酒を酌み交わし「書」について、人の生き方や恋愛について体験談として多くの話を聞きました。

今では手にすることが困難になってきた著書「書論ノート」には作品十六点を掲載、「表現と書表現」「文字と書」「書と遊びについて」「古典と古典研究」や「書における線の研究」など九十一年の生涯に「書」と向き合った姿勢が鮮烈に見えてきます。

一行一行を読んでいくと行間から不思議に岡部蒼風の声が聞こえてきます。記憶というのは面白いものだ・・・と思います。いくら思い出そうとしても聞こえてこない先人もいれば、時々気まぐれのように人の前に現れて話し込んでくるような人もいたり、人として「素」で触れ合った人間だけに許される特別な関係なのかも知れません。

ギャラリーや出版の仕事で関わった作家の方々は数知れず、またお客様としていろいろなお話をしてきた方も膨大な数になるようですが、その方々が生死に関係なくちらちらと目の前に・・・と言うか記憶から抜け出してきました。人が人に与える影響とは何なのでしょう。関わるとは何なのでしょう。自分が生きてきたという証は何でしょう。

岡部蒼風の残した「書論ノート」は、残した作品から読み取ることの出来ない岡部蒼風という人間を浮き彫りにしています。

昔から「書は人なり」という言葉がありますが、作品から人柄を知ることが困難な場合が多いのも事実ですが、文章からは意外に読み取ることが可能です。多くの人々と対面して一時間も話していれば、その人格や生活習慣や趣味嗜好が見えてきます。多くの作家との関係は、深くもあり、浅くもあり、広くもあり、狭くもあり、長くもあり、短くもあり、あらゆる関係性の上に成り立っていますが、いつでも「素」の状態で出会い、そして会話をしているといった毎日です。何かを残す意識して制作や生活をしていることよりも、いかに生きたか、いかに書いてきたか、いかに表現してきたか、その人の存在は自然とその周辺の人に影響を与え、そして作品も何故か残されていくもののように感じます。年齢を重ね、身近な人が他界していくと、さらに今後どのように生きていくかを問い直しているこの頃です。

(武藤)

## ノイエス朝日(展示会)のご案内

## 住谷夢幻展

〈企画〉

— 書で詩的宇宙を書き込みたい —

日時 九月十七日(土)～二十五日(日)

午前10時～午後5時30分(最終日は午後5時)

会場 ノイエス朝日 スペース1:2

「書表現」という方法で自己表現を始めて三十数年になるという。若い頃にフランスの詩人ランボーに心酔して革新的な詩を書き、言葉についての見識を重ね、「書痴」と言われる程の読書量と博識を身につけた。

「虚に居て実を行ふべし、実において、虚に遊ぶ事はかたし」想像の世界に身をおいて、真実を表現せよ、事実にとらわれていて、想像の世界に奔放に遊ぶことは難しいことである。これは、芭蕉の言葉として伝えられている。

芭蕉が虚実観にいうところの「虚」とは自分一個の我身をすてて、心を天遊の境にあらしめることをいうのである。「書論ノート」に記してある。積み重ねてきた所から滲み出てくるような感覚の世界は簡単には手に入らない。探し求め、苦しみ、多くの時間を制作に費やし、膨大な紙や墨を使い、多くの書物に目を通し、それでも「遊び」の真の境地に至るには困難がつきまとう。

制作という行為の過程で作家たちは、ある時、突然に自分が置かれている空間に「虚」と「実」の世界観を感じることがあるだろう。それは即ち「遊び」の境地であるかも知れない。「遊び」とは実に魅力的な行為だ。

あらゆる分野の作品を見つけてきた人間が、住谷夢幻として、表現者として自己の中に新しい自分を見つけ出すために試行錯誤して制作してきた作品六十数点を展示。洗練された作品の中に先人たちの声を聞き、さらに「線」の動きや墨の濃淡に息づかいを感じ取り、楽しんでいただければと思います。

## 群馬作家展

〈企画〉

日時 十月一日(土)～九日(日)

午前10時～午後6時(最終日は午後5時)

会場 ノイエス朝日 スペース1:2

## 出品作家

青木岳男(竹工芸) 飯出袈裟市(木工芸)  
伊藤久米夫(陶芸) 倉田辰彦(紙・石工芸)  
小見佐市(樹皮工芸) 須藤 茂(銅板工芸)  
高田年三(木工芸) 田中正子(江戸小紋)  
永井與子(友禅)

## お知らせ

ここ数年、一月に開催していましたが「X氏のコレクション展」及び「コンサート」の主催者であるX氏が八月五日逝去されました。

ノイエス朝日におきまして、多くの方々がX氏と触れ合い、素敵な音楽会を企画、実施していただき感動をいただきました。また、X氏は、東日本大震災で被災された仙台フィルを応援していました。

音楽を愛し、映画も毎週何本も見に出かけ、美術作品も好きでノイエスにもよく足を運んでいただきました。

夕方ふらつとノイエスに入ってきて、ゆつくりと作品と向き合っている姿が昨日のようです。

この場をかりてX氏に心から感謝し、ご冥福をお祈りしたいと思えます。

なお、最後に数人でお別れをしてみました。展示会でお会いした方、またコンサートに招いていただいた方もどこかでX氏を想い出していただければと思います。

\*X氏のお名前は、ご本人もあまり表立ってすることが好きではありませんでしたので、本名は控えさせていただきます。